



◆ 年末のご挨拶

賛助会員の皆様には、平素からお世話になり、大変ありがとうございます。
さて、当センターの活動につきましては、気象庁をはじめ多くの関係者のご協力を頂きつつ進めてきており、おかげさまで順調に推移しております。その活動状況の一端につきましては、随時本紙でも紹介させて頂いております。

昨年10月に打ち上げられた気象衛星（「ひまわり8号」）は、本年7月7日に本格的な運用を開始しており、当センターでは、気象衛星センター（東京都清瀬市）の庁舎内に新配信システムを整備させて頂き、同時に運用を開始しております。TV等の天気予報番組で、ひまわり8号により観測された地球とそれをとりまく雲の様子が、鮮やかなカラー画像としてお茶の間にも届けられています。気象庁HPでも、日本付近については、2.5分毎の高頻度観測による動画を見ることができます（<http://www.jma.go.jp/jp/gms150jp/>）。センターとしても確実に情報提供できるよう万全を期したいと考えております。また、来年には、気象注意報・警報や地震情報等の防災情報を配信していますシステムの更新を予定しております。

気象予報士試験につきましては、昨年より受験申請者は若干減少しましたが、7,271名の申請があり、255名の方が合格しました。気象予報士の技能向上に向けて、各種講習会の開催や気象庁作成の研修テキストの頒布など、引き続き技術的な支援を行うこととしています。

気象測器の検定につきましても、気象観測の品質確保の重要性から、毎年1万件を超える雨量計、温度計等の検定を行ってきています。

また、熱中症予防対策につきましても、2020年夏の東京オリンピックを前にして、気象データを活用した観測調査・研究を環境省等の関係機関と協力して行ってまいりました。



さらに、国際協力機構（JICA）等と協同して、世界各国の気象機関等への海外支援を行ってきており、本年も、フィリピン、インドネシア、ブータン等のアジア地域、フィジー・ソロモン・バヌアツ等の大洋州、エルサルバドル、ペルー等の中南米地域など、多くの国々への支援を行ってきています。さらに、アフリカのモザンビークに対する「気象観測及び予警報能力向上プロジェクト」に着手しています。近年多くの国々で、台風等の気象分野に加えて、地震・津波等の分野にも大きな関心が寄せられており、我が国からの防災・減災に向けた技術支援が期待されています。

いずれにしましても、本年、円滑に業務運営できましたことに関係各位に改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。

来る年、賛助会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りするとともに、引き続きご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

<写真>

国際協力機構（JICA）によるフィリピンの気象庁（PAGASA：Philippine Atmospheric, Geophysical and Astronomical Services Administration、フィリピン大気・地球物理・天文局）への技術支援計画（気象観測及び予警報能力向上プロジェクト）の風景。矢印は、当センターから派遣した専門家。

左上：気象観測と検定等の品質管理に関する講義

右上：気圧計の検定・校正に関する技術指導

下：気温予報のガイダンス開発に関する技術指導。

<参考>

賛助会員便りでは、6月から10月にかけて4回に分けて「情報提供業務（オンライン）における利用者の動向について」として、ご報告してまいりましたが、この報告とともに、当センターとして民間気象業務の歴史的な発展を併せてとりまとめ、気象庁の測候時報の紙面をお借りして公開しました。下記の気象庁HPで公開されていますので、ご覧いただきたいと思います。

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/sokkou/82/vol182p081.pdf>

（一財）気象業務支援センター、2015：民間気象業務の発展と民間気象業務支援センターによる情報提供業務の動向について、測候時報、第82巻、81-114頁。

（理事長）